

人材塾 第2回講義 コメント・質疑応答まとめ（4分類整理版）				
※ 受講生共有用として、思考しやすいようにコメントを4分類で並べ替えています。分類は内容の主題で整理したため、複数テーマにまたがるコメントもあります。				
分類：①少子化・出生率 ②ウェルビーイング・所得・経済 ③スマートシュリンクの考え方 ④自治体実践・地域での進め方				
分類	No.	印象に残ったこと・新たな気づき	要望・疑問・質問・意見	小峰塾長・片山所長回答欄 ※回答可能な質問にのみお答えさせていただきました。
少子化・出生率	4	自分の周りには家事に参加する人が多いので少ないのは意外だった		
少子化・出生率	6	確かに家事を協力していないと思います。あと少子化より今までの緊縮財政による30年のデフレが大病だとおもいます。	本町の町長もスマートシュリンクはよく話しています。	
少子化・出生率	7	出生につながる取組が必要なのではないかと、感じました。 結婚に踏み切れるように、そっと背中をおすような。 子育て、教育にかかる費用と精神的負担が軽減されるような施策が求められているのではないかと感じました。		
少子化・出生率	9	「出生率は、男女が共に働きながら子供を産み育てやすい社会環境が整っているかという総合的なアウトカム指標」、これは非常に重要なことで、本町の政策においても重要ではとってくる！	スマートシュリンク、本当に面白い。 小峰先生の著書、読みます。	
少子化・出生率	10	なぜ「賢く」という言葉をチョイスしたのか純粋に気になりました。 また、合計特殊出生率が低下しているのは知っていましたが、そもそも希望出生率も2を超えていないことを初めて知り驚きました。少子化そのものが病気なのか、大きな病気の副作用なのか、といったお話がありましたが、やはりさまざまな問題が複雑に絡み合っていて少子化が起きているのだと私自身も感じますし、ひとつを対処すればそれが解決するというものでもないと思いました。だから、適応戦略（スマートシュリンク）が重要なのだと再認識できました。		
少子化・出生率	11	人口減少下でもGDPが伸びているということは印象に残った。それにもかかわらず経済的な理由等から出生数が減っている。GDPを伸ばすだけでは出生数は伸びないのではないかと考えた。	スマートシュリンクは周辺の自治体が同時に取り組むべき課題であると思いました。 スマートシュリンクの考え方は普及しておらず、1つの自治体だけが取り組むと、やはり議員や内部からスマートシュリンクに取り組んでいない方が良いのではないか？という声があがるのではと思いました。	
少子化・出生率	21	少子化そのものが病気なのか？大きな病気の副作用なのか？ということ。 私たちの自治体でも少子化問題、少子化対策が話題に上がっているが、いろんな策打っても変わっていかない。 他に問題があって、そこに視点を変えていかないといけないということを考えさせられました。		
少子化・出生率	25	少子化は大きな問題の副作用であるという話が印象的だった。欧米の政策やOECDの提言など、自分でも調べて考えを深めていきたい。		

人材塾 第2回講義 コメント・質疑応答まとめ（4分類整理版）				
※ 受講生共有用として、思考しやすいようにコメントを4分類で並べ替えています。分類は内容の主題で整理したため、複数テーマにまたがるコメントもあります。				
分類：①少子化・出生率 ②ウェルビーイング・所得・経済 ③スマートシュリンクの考え方 ④自治体実践・地域での進め方				
分類	No.	印象に残ったこと・新たな気づき	要望・疑問・質問・意見	小峰塾長・片山所長回答欄 ※回答可能な質問にのみお答えさせていただきました。
ウェルビーイング・所得・経済	1	人口規模と経済成長が比例していないことに驚きがあった		
ウェルビーイング・所得・経済	8	人口規模とウェルビーイングは無関係ということは勇気付けられました	所得とウェルビーイングがリンクするのはどのような考えからでしょうか？ 所得以外には何か指標は考えられるのでしょうか？	ウェルビーイングは非常に幅広い概念で、人々の幸福、福祉、満足度などを総合的に示すものです。ただし、ウェルビーイングは個々人の価値観によっても異なるものなので、これを直接測定したり、政策目標にすることは難しいと思います。アンケート調査で「あなたはどの程度幸せですか」と聞いてみることでウェルビーイングを測定しようとする試みもありますが、私はあまり賛成できません。少なくとも所得水準が高いことが、人々のウェルビーイングを高めることは間違いないだろうと考え、政策的には「一人当たり所得」を目標とするのが妥当だと思います。
ウェルビーイング・所得・経済	14	人口減少は避けられないことを踏まえた上で人々の生活をどう充実させていくか、施策を考える上で重要な視点を得ることが出来ました。	人口が減っていく中でも一人当たり所得は下らずウェルビーイングも下がらないとお話でしたが、そうはいつでも臨界点はあると思います。そこを迎えるくらい人口が減るのもそう遠くないことに思いましたが、その際に人々のウェルビーイングを高めるために我々が出来ることを考える必要があると感じました。	
ウェルビーイング・所得・経済	17	私たちの住む地域も人口減少が著しい地域ですが、今回の講義の中の人口減少地域での一人当たりの県民所得の伸びが高いと言うことは大変驚きでした。人口が減少しておりさらにその減少率も高い中でプラスなことは何もないのではないかと思っていましたが、持続可能なまちづくりとしてまだまだ希望は多少あるのかもしれないと感じました。 私たち自治体も来月に市長選を控えているため、これを機に山梨県の用にスマートシュリンクがすずめばいいなと感じました。		
ウェルビーイング・所得・経済	18	人口規模とウェルビーイング・経済成長率は無関係というところ。 日本人男性の育児参加や家事参加が低いこと。		
ウェルビーイング・所得・経済	19	出生率や人口規模の減少が、必ずしもウェルビーイングが下がることには繋がらない・むしろ高いということは新たな気づきでした。	人口抑制(抑制戦略)と賢く縮む(適応戦略)を同時に組み合わせることが、人口減少対策なんだと感じました。	
ウェルビーイング・所得・経済	22	人口が減っても福祉が損なわれないようにすること、ウェルビーイングが保たれるもしくは高まることを目指すと言うことが印象的でした。 人口が減ることいろんな課題に目がいってしまうが、ウェルビーイングが高まる前向きな方に目を向けるのは大切だと思いました。		
スマートシュリンクの考え方	2	人口規模に合わせた取り組みをしていくという考え方は今現在の社会にとっても合っていると思う。		
スマートシュリンクの考え方	3	賢く縮むことがより良いものだと感じた。特に私たちの町では今中学校の統廃合に取り組んでいる。町民から賛否両論ある中でじんこうげんしよや高齢化を前提として今のうちで取り入れる（縮む）と言うことはとても大切だとおもう。	毎講義とてもよい勉強になり、自分の知識も増えていく良い講義になっている。	
スマートシュリンクの考え方	24	人口減少の予測は、低位と相関していること、抑制策と適応策という発想を得ました。 抗えない事実を受け止めたうえで、何を残すか、保つかという議論を正面から進めていく段階にあると、あらためて感じました。		
スマートシュリンクの考え方	26	日本は人口減少にあまりにも目が行き過ぎているというお話がありましたが、人口減少は避けられないと分かっているのに人口減少対策をと考えてしまっている行政職員がまだまだ多いと思います。そのような視点を変え、スマートシュリンクや共有型の地域活性化策でウェルビーイングを高めるまちづくりに取り組めればと感じました。本日は、ありがとうございました。		

人材塾 第2回講義 コメント・質疑応答まとめ（4分類整理版）				
※ 受講生共有用として、思考しやすいようにコメントを4分類で並べ替えています。分類は内容の主題で整理したため、複数テーマにまたがるコメントもあります。				
分類：①少子化・出生率 ②ウェルビーイング・所得・経済 ③スマートシュリンクの考え方 ④自治体実践・地域での進め方				
分類	No.	印象に残ったこと・新たな気づき	要望・疑問・質問・意見	小峰塾長・片山所長回答欄 ※回答可能な質問にのみお答えさせていただきました。
自治体実践・地域での進め方	5	全ての希望が満たされたとしても、希望出生率がどうあがいても2にいかないのは意外だった。	県はスマートシュリンクを推進したいが、県内の自治体間では温度差があるということを聞きました。 全県的にスマートシュリンクを進めるには、どのような工夫があるでしょうか？	県としては、全県的にスマートシュリンクを進めるという従来型の発想は捨てるべきです。意識の高い自治体が先駆的に取り組み、それを見た他の自治体でもその必要性を感じるようになるはずで、それを待つ姿勢がいいと思います。
自治体実践・地域での進め方	12	縮むことと、幸せと感ずることは比例しないこと。 本市は7年12月に策定した中山間地域振興基本計画の基本目標で、縮充社会の実現を掲げている。 概ね、その考え方は住民にも理解されていると感じるが、今後求められることは、具体的に何をどうするのか示して欲しい、ということだろうと考える。 考え方を広げるためには、わかりやすい縮充の事例を示すのがいいのだろうと考えるが、まだ、考えつかない。 が、本市も、公共施設総合管理計画に基づき公共施設の複合化をしているし、小中学の統合しているし、地域運営組織設立しているし、こうした既に縮充と考えられる取り組みを縮充の例だよ、と、示すのも良いのかもしれない。 いずれにしても、行政が主導するとしても、何をやめ何を残すかを決めるのは住民であるべきと考える。		
自治体実践・地域での進め方	13	14ページの出生数の件、少子化は病気かとの話があったが、私は仕組まれた時限爆弾だと思っています。元は国が1947年から49年にかけて、人口爆発による危機感から、産児制限を始めて人工中絶の容認を認めだしたところから始まってます。それにより出生率は4→2に激減しています。この時点で産む人口が減ることが運命付けられていたと考えている。 スマートシュリンクは総論賛成、各論反対となります。理想としてはやるべきだが、切羽詰まっている小規模自治体や代替手段が豊富な都市圏の自治体ではやりやすいが、地方の中規模自治体では住民の合意形成が困難。特に隣接自治体と同規模であればあるほど、難しいと思います。 代替手段がない中で、田舎の年寄りを切り捨てるのかとの批判覚悟で、投票率の高い年寄りを切り捨てられるのかというところ です。		
自治体実践・地域での進め方	15	国勢調査の内容から、2040年から東京でも人口減少が始まるというのは正直衝撃的だった。 何なら15年後にはそういった現象が起こると考えると、地方は一体どうして行ったらいいのか。 今現在では都会の方が地方移住といった政策もやっているが、それどころではなくなることを考えるとどうしていかなければならないのかしっかりと考えていかなければならない。		
自治体実践・地域での進め方	16	少子化が病気なのかという問いかけが印象に残りました。 少子化を課題としてしまうと、出生率に振り回されてしまう気がしていたので、スッキリしました。 今いるメンバー、住民でどう作っていくか、暮らしていくかを自分ごとで考えられるといいなあと思いました。 先人は、人口も少ない中で、生活していたはず、不便な中で、知恵を出し合ってきたので、原点回帰でいくのかなあと思ったりです。 いろんな状況や環境に対応できるためにも心身共に元気であることが大切ではないかと思っています。		
自治体実践・地域での進め方	20	出生率は目標ではなく結果である。 子ども達の発達と将来への負の影響を少なくする。 山梨県早川町の事業見直し。 これは、必要なことだとは思いました。 その実施方法は、なかなか難しそうですが…。	多様性の社会といわれている現代社会で、全国民が同じ方向を向く必要があると思うが、国の施策がすでに定まっていな い中で、地方としてどのように立ち振る舞うべきでしょうか。 * チャットにも同様のご質問をいただきました	スマートシュリンクについては、国の政策の方向が明確でないことは確かですが、私は「国が言っても言わなくても、それしかない」と思いますので、各地域で人口減少に適合した地域づくりを進めるべきだと思います。
自治体実践・地域での進め方	23	「縮小」を掲げている自治体が少ない中で抑制戦略と適応戦略を同程度重視する知事が多く驚きました。近隣市町との共同施設利用も推進すべきなの でしょうか。 また、現在の働き方では子育てと仕事を両立できず、女性に負担がかかっているように感じていました。出生率は結果であって、あくまで根本の旧来型の考 えを解決、という考え方に非常に共感しました。		
自治体実践・地域での進め方	27	どうしても避けられない人口減少ではあるが、想定よりスピードが早いというのに驚いた。このような社会において地方自治体は何に重きをおいて行政を回して 行けば良いのか、考えさせられる良い講義であった。どうせ減るなら子育て支援や結婚支援に力を入れても焼け石に水であるし、今いる人のために事業を展 開していくというのも考え方として有りかなと思った。		

人材塾 第2回講義 コメント・質疑応答まとめ（4分類整理版）				
※ 受講生共有用として、思考しやすいようにコメントを4分類で並べ替えています。分類は内容の主題で整理したため、複数テーマにまたがるコメントもあります。				
分類：①少子化・出生率 ②ウェルビーイング・所得・経済 ③スマートシュリンクの考え方 ④自治体実践・地域での進め方				
分類	No.	印象に残ったこと・新たな気づき	要望・疑問・質問・意見	小峰塾長・片山所長回答欄 ※回答可能な質問にのみお答えさせていただきました。
自治体実践・地域での進め方	28	ご講演ありがとうございました。 小峰先生のスマートシュリンクに1点、ご意見をしたいと思います。一個人の意見なので、何卒ご容赦ください。 先生の示されている資料の中で、社人研の資料が前提として良く使われております。 この社人研の資料は、過去のトレンドから、将来の予測を出しています。 したがって、現状のテクノロジーの発展については、未反映のものとなります。 私が気にしていることは、現在のAIの爆発的な普及についてです。 この影響は、コンドラチエフの長期波動説に該当するくらいのインパクトだと感じています。 これらのテクノロジーが日常生活に溶け込んだ場合、人口問題のパラダイム転換が起きると考えています。 事実、医療分野におけるAIの導入は爆発的に広がっています (https://www.fortunebusinessinsights.com/jp/%E6%A5%AD%E7%95%8C-%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88/%E3%83%98%E3%83%AB%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%82%A2%E5%B8%82%E5%A0%B4%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E4%BA%BA%E5%B7%A5%E7%9F%A5%E8%83%BD-100534)。 また、ゲノム研究も進んでおり、特にロンジエビティー医療 (https://www.youtube.com/watch?v=fs49k-XEMhc) が進んでいます。	授業の評価が「普通」というのは、この考え方に他の参加者と比べ長い時間触れてきたため既知の部分が多かったためと、各市町から質問が出ないということの2点からです。もっと発言してくれる人が現れると嬉しいですね。勿体ない。 私は質問したかったのですが、恐らく質問の時間を独り占めしてしまう可能性が高かったので、遠慮させていただきました。申し訳ございません。もっと近くにこうした考えに対して議論ができる人がいると面白いですね。	
自治体実践・地域での進め方	28	とするならば、今後の健康寿命や平均寿命はどうなっていくのか。 昭和初期、平均寿命は45、46歳であった (https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/19th/gaiyo.html) これが現在80歳を超えています (https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life24/dl/life24-02.pdf) よく例えで言われることですが、漫画のサザエさんに出てくる波平さんは54歳です。著名人と言えば、藤井隆さんや常盤貴子さんです。一昔前ではおじいちゃんであった人ですが、現在の人でみると身体的、精神的にもおじいちゃん、おばあちゃんには見えません。 理論上の人間の寿命は122歳だと言われています。これに徐々に近づき、ある学者の方は200歳まで可能だとの話も眉唾物ですが言っています。 試しに生成AIで「近年の健康寿命の延伸や長寿化、医学や生理学、分子生物学の発展を鑑みた場合、2026年時点の高校生の年代の平均寿命と定年は何歳になっているか、根拠を示して教えてください。」と命令した場合に返ってきた答えは、 1. 平均寿命の予測：100歳時代（センテナリアン）の標準化 現在、先進国では「寿命の延び」が加速しています。これまでの「医学的な延命」から、分子生物学による「老化のプロセスそのものを制御する」段階へと移行しつつあります。		
自治体実践・地域での進め方	28	2. 「定年」の再定義：75歳～80歳への移行 「60歳や65歳で引退し、残りの人生を余生として過ごす」という現在の定年モデルは、労働力人口の減少と個人の健康水準の向上により、持続不可能になります。 平均寿命だけでなく、「自立して生活できる健康寿命」が平均寿命の延びと同等、あるいはそれ以上に延びる見込みです。70代であっても現在の50代相当の身体・認知機能を持つ人がマジョリティになります。 だそうです。 この場合、今現在の常識で考えた場合の生産年齢人口は再考する必要があると思います。 私個人としては、60歳定年だと思っていたのが、現状65歳、これが70歳・・・75歳・・・。嫌な気持ちにしかありませんが、元気な高齢者が増えて、増えてという表現よりも、若返りの方がいいのかもしれませんが、生産年齢人口の考え方も変わってくと思っています。 また、生産年齢人口の考え方は、20世紀経済の考え方、リアル世界での労働を前提にしています。おおよそ今までは、一部の例外を除き法的に雇用契約を締結し賃金を得られる年齢から定年までの設計です。今後発展していくバーチャル世界では、その考え方は改める必要があると思います。それにはロボットテクノロジー、バイオテクノロジー、AI、ARやVRの発展があり、労働の概念自体が変わる可能性があります。人の仕事は、選択と決定、感性や0→1にするようなものになっていくのではないかと考えています。		
自治体実践・地域での進め方	28	現在でも、小、中学生でもユーチューバーとして億単位の稼ぎを出すものがありますし、デジタルネイティブであれば、場所、時間関係なく、高度頭脳労働が可能な環境が揃っています。それは65歳以上でも変わりません。 このことに加え、ご講演の中で出てきた介護需要についても、そのあり方が格段に変化していることが予想されます。 介護に関わることであると認知症についてもその原因であるベータアミロイドの蓄積を除去できる薬も出てきました。また、そもそものサーチュイン遺伝子を覚醒させる物質の開発など、老化と呼ばれる現象に対してのアプローチにも加速度的な変化が起こる可能性が高くなります。ピンピンコロリが現実になるかもしれません。 ただし、全てが不確実性の中の話であるため、議論の余地はありますし、学問としての定量的データを基礎としていないので、あくまで予測の域を出ません。		

人材塾 第2回講義 コメント・質疑応答まとめ（4分類整理版）				
※ 受講生共有用として、思考しやすいようにコメントを4分類で並べ替えています。分類は内容の主題で整理したため、複数テーマにまたがるコメントもあります。				
分類：①少子化・出生率 ②ウェルビーイング・所得・経済 ③スマートシュリンクの考え方 ④自治体実践・地域での進め方				
分類	No.	印象に残ったこと・新たな気づき	要望・疑問・質問・意見	小峰塾長・片山所長回答欄 ※回答可能な質問にのみお答えさせていただきました。
自治体実践・地域での進め方	28	これによって、スマートシュリンクの概念を否定するのではなく、スマートシュリンクは必要だと考えます。賛成です。私は、現在が豊かになりすぎた社会のなれ果てで、単純に便利すぎると感じるからです。便利になりすぎると人間は退化してきます。ただ一方で、経済で言うところの効率化、合理化すべきことには、ビジネスチャンスが生まれます。あえて不便を残しておくようなことは資本主義では起こりえません。資本主義はベストではないが、ベターな手段なので、仕方のないことだと思います。今後社会が成熟していけば、その不便さを楽しめるような余裕が生まれないかなあと考えていますが、格差のある世界の中では夢物語であると思います。欲深き人間が考えるだけに、現在の快適さを捨ててまで不便を受け入れていく人が果たしてどれだけいるか。 講義の最後のコメント共有であった「周辺市も含めて」は的を得てはいますが、この前提で考えるとそれだけでは生ぬるい、世界的に進まなくてはならない課題ではないかと思っています。しかしながら、今の先進国の豊かさは、途上国の犠牲の上に成り立っていることから考えると途上国は受け入れられないでしょう。また、そもそもで宗教が違う国々が同じ方向に向かって手を取り合うことは難しいと思います。		
自治体実践・地域での進め方	28	話が脱線しましたが、私はスマートシュリンクに現在のテクノロジーの発展の要素を加味したいと思っています。 それは、65歳以上人口は増加傾向が続き、令和25年に3,953万人でピークを迎え、その後も高齢化率は上昇の一途を辿る（令和6年版 高齢社会白書）がという暗い未来ではなく、その頃の65歳、いや70代は今の50代くらいのイメージであると言えば、今の子どもたちが少しマシな未来が描けるのではないかとと思っています。1人の老人を1人の現役世代が支えるという拷問のような未来ではなく、その頃の現役世代の考え方は変わっていると。そうであればウェルビーイング、人々が良い状態になるための一つの要素、暗い未来ではなく、少しは明るい未来＝希望がそこには生まれるのではないかとと思っています。 景気の気は気分の気であるように暗い未来では、今から金を使おうなんて思いません。その意識の転換をするためにも、また、今後を担う子どもたちに少しでも明るい未来が届くようにできないかと思って上記のような考えに至りました。 話がまとまらず、長文、乱筆となり、申し訳ございません。お付き合いいただき、ありがとうございました。 私の意見は以上です。		